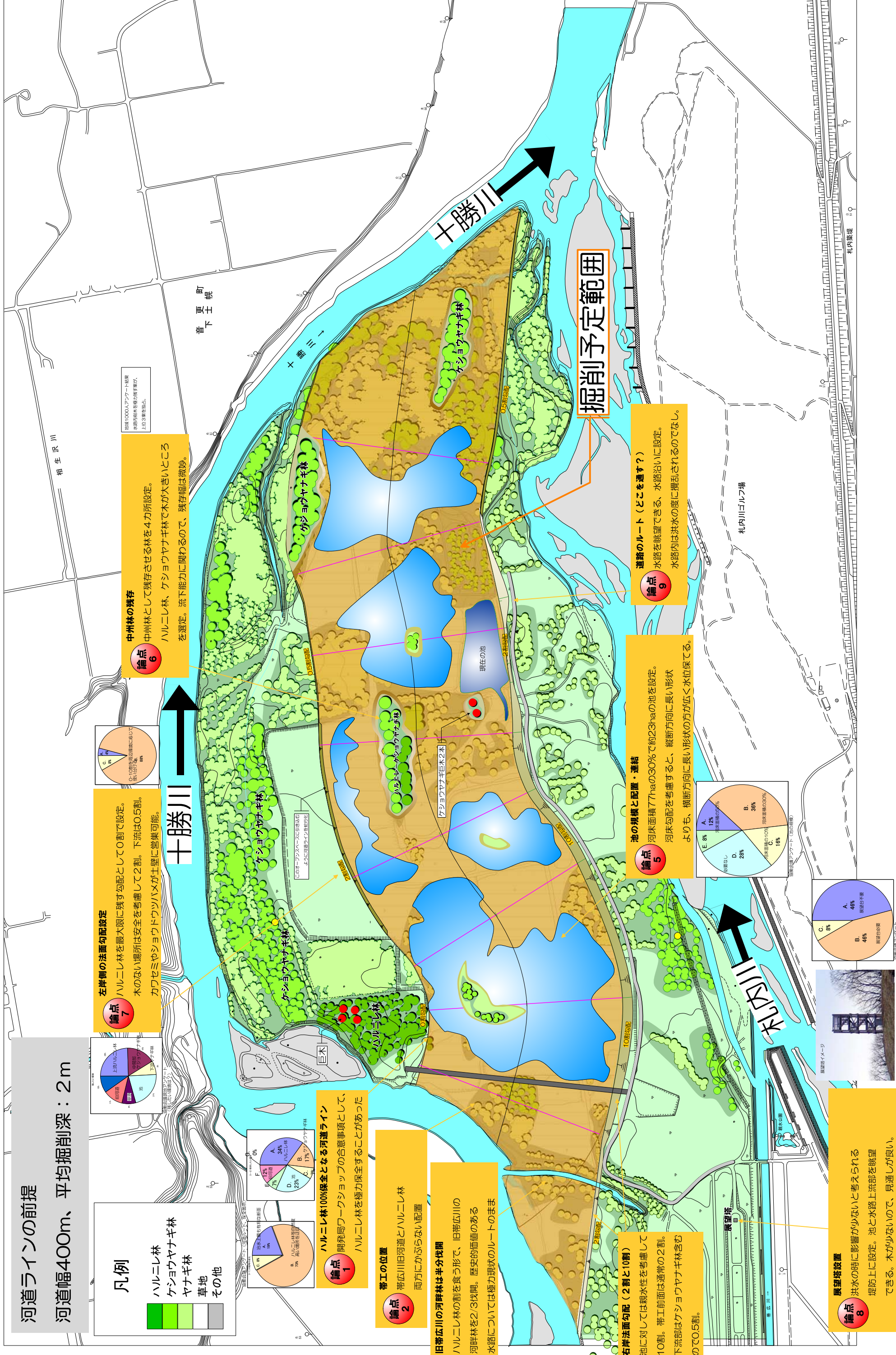


十勝川相生中島市民協働会議提案 計画平面図

3年間の公募ワークショップを基本とし、地域住民1000人アンケート、協働会議アンケート、現地踏査アンケート、シンポジウム議事録を参考に作成

100m 200m 400m



河道ラインの前提
河道幅400m、平均掘削深：2m

凡例
 ハルニレ林
 ケシヨウヤナギ林
 ヤナギ林
 草地
 その他

左岸側の法面勾配設定
論点 7
 ハルニレ林を最大限に残す勾配として0割を設定。木の少ない場所は安全を考慮して2割。下流は0.5割。カワセミヤシヨウドツバハマが土壁に営業可能。

中州林の残存
論点 6
 中州林として残存させる林を4カ所設定。ハルニレ林、ケシヨウヤナギ林で木が大きいところを選定。流下能力に関わるので、残存幅は微妙。

論点 1
ハルニレ林100%保全となる河道ライン
 開発局ワークショップの合意事項として、ハルニレ林を極力保全することがあった

論点 2
帯工の位置
 帯広川旧河道とハルニレ林両方にかぶらない配置

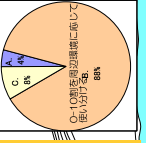
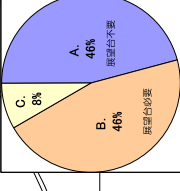
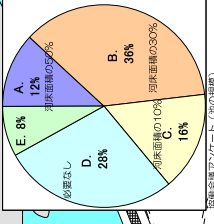
論点 3
旧帯広川の河畔林は半分伐開
 ハルニレ林の割を食う形で、旧帯広川の河畔林を2/3伐開。歴史的価値のある水路については極力現状のルートのまま

論点 4
右岸法面勾配（2割と10割）
 池に対しては親水性を考慮して10割。帯工前面は通常の2割。下流部はケシヨウヤナギ林含むので0.5割。

論点 5
池の規模と配置・連結
 河床面積77haの30%で約23haの池を設定。河床勾配を考慮すると、縦断方向に長い形状よりも、横断方向に長い形状の方が広く水位保てる。

論点 9
道路のルート（どこを通す？）
 水路を眺望できる、水路沿いに設定。水路内は洪水の度に攪乱されるのでなし。

論点 8
展望塔設置
 洪水の時に影響が少ないと考えられる堤防上に設定。池と水路上流部を眺望できる。木が少ないので、見通しが良い。



掘削1000人アンケート結果
水防的利便性を優先する者が、上位3業者を優先。